

克己心身を練れ
勤勉実力を養え
至誠事に当れ

第188号 令和4年12月22日(休) 静岡県立富士高等学校
<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fuji-h/home.nsf>

静岡県富士市松本17番地
電話 (0545) 61-0100

富士高創立100周年を迎えて

教頭 菅谷 壽宏

去る11月11日に本校の創立100周年記念式典が
挙行された。式典当日は、御来賓の皆様、本校の
教職員及び生徒、記念式典実行委員会をはじめと
する同窓生の皆様、保護者の皆様、およそ1,500
人もの方々の出席を得て、本校が100周年を迎え
たことを祝っていただいた。ここでは、この日を
迎えるまでの準備と当日の様子を振り返ってみた
い。

●実行委員会立ち上げ

令和2年11月に創立100周年記念事業の第1回
実行委員会が招集された。それまでは式典、記念
誌などの部会ごとに準備を進めていたが、学校と
同窓会、学校後援会、PTAなどの外郭団体ととも
に記念事業を推進する組織が整った。在校生と卒
業生による共同事業とすること、次の100年につ
ながる事業とすることなどの基本方針が確認され、
それに沿って準備を進めることとなった。さらに、
この年に記念事業の一つとして、生徒の学習環境
を整えてやりたいとの同窓会の強い思いから、「学
習環境改善プロジェクト」と銘打って教室の机と
椅子を一回り大きな物に更新することが決まった。

●スローガン等の決定と広報体制の確立

令和3年度に入った早々、各HRから100周年記
念事業のスローガンを募集し、「百尺竿頭～高みに
向かって一步前進」と決まった。同時にシンボル
マークも募集し、いくつかの候補から富嶽祭での
投票により当時2年生の秋山美月さん考案の図案
に決まった。以後、スローガンとシンボルマーク
は様々な媒体に用いられ、式典に向けて機運を盛
り上げる一助となる。また、本校の卒業生である
シンガーソングライター結花乃氏によりテーマソ
ングが2曲供され、富嶽祭で生徒に披露された。

また、広報部会では100周年記念ウェブサイ
トの構築が始まった。富士高の歴史、活躍する同
窓生、現在の富士高など徐々に掲載するコンテ
ンツを増やしていった。記念ウェブサイトは現在
でも閲覧することができる。

●学習環境改善プロジェクト

令和4年度を迎え、実行委員会の各部会の動
きはますます活発になった。記念事業に向けた同
窓生からの貴重な浄財も集まり、1学期中には生
徒の新しい机・椅子の選定と発注も完了し、8月
の終わりには無事納品された。講堂におよそ1,300
脚の机と椅子が積み上がった様子は壮観であつた。

8月31日、2学期始業式の当日に机と椅子の更
新作業が行われた。あいにくの雨模様で、降雨に
より作業を何度か中断する場面もあったが、生徒
と職員全員の手で古い机と椅子を搬出し、生徒は
これから自分の使う机と椅子を自身の教室まで運
んだ。この様子はマスメディアに紹介されたので
御覧になった方も多いかと思う。古い机と椅子は
カンボジアに移送され、プノンペン他の学校で使
われることになっている。生徒たちは、これまで
使用したことへの感謝の気持ちと、次に使用する
カンボジアの生徒たちへの想いを込めたメッセ
ージを書き机に貼付した。今後は、仲介していただ
いたファンドから御支援をいただき、本校代表生
徒のカンボジア訪問と寄付先の生徒との交流が予
定されている。

●記念誌完成

9月末、準備に3年以上を費やした創立100周
年記念誌もようやく校了を迎えた。各卒業期それ
ぞれに見開きを宛て、その時々代表的な富士高

(次頁に続く)

での出来事と各期の代表者からのメッセージからなる本校の軌跡と本校の現在、未来の観点から構成された記念誌は、実に充実した出来栄となり、11月11日に刊行された。

●記念式典に向けて

式典でのイベントでは卒業生と在校生のパネルディスカッションをメインに据えた。パネリストには経済界、学界などで活躍されている本校の4人の卒業生と現役生徒会長の菊池咲来さんを加えて、そうそうたる顔ぶれとなった。エンディングでは生徒全員でテーマソング「学び舎」を合唱し、フィナーレを迎えることとなった。8月に昨年度に音楽を選択した2年生有志に集ってもらい、合唱のレコーディングを行い、9月からは昼休みに放送委員会がそれを放送で流すことで全員の耳を慣らした。式典前には音楽講師の倉藤先生による歌唱指導を計画し、10月末には学年毎に体育館で合唱の練習を行った。短時間の練習ではあったが、生徒は非常に上達し、よい合唱に仕上がってきて、本番に向けて手ごたえを感じることができた。しかし、未だコロナ禍は治まらず、客席での歌唱に対して使用会場からの許可を得ることができず、やむを得ず断念することとなった。最後のリモートで行った全体練習では、ステージに上がる代表の生徒たちに思いを託し、心を一つに通わせて本番を迎えるよう、全員で精一杯歌うことができた。

●式典の様子

11月11日、天候に恵まれる中で式典を迎えた。全校生徒による人文字の空撮動画が上映された際は、生徒たちが大いに沸き、雰囲気盛り上がる中で式典は開催された。司会進行はもちろん生徒の手からなる。厳粛な式に続いて、イベントの部では結花乃さんのテーマソング披露、パネルディスカッション、生徒発表と続き、最後は代表生徒による「学び舎」の合唱で締めくくりを迎えた。パネルディスカッションでは本校卒業生の大学生、青木このみさんがコーディネーターを務め、見事な進行ぶりで、各パネリストの個性や考え方などを上手く引き出し、楽しく中身のある展開となった。生徒発表では、生徒の工夫した発表により総合的な探究の時間「心見考」や理数科の課題研究といった本校の教育活動の成果の一端を、魅力的に聴衆に伝えることができた。エンディングでは代表生徒のみでの合唱となってしまったが、会場の生徒の心が一つになった素晴らしいステージであった。格調があり、落ち着いた、中身の濃い式典であったと各方面からお褒めの言葉をいただいている。

百尺竿頭の言葉のとおり、既に次の100年に向けての営みが始まった。無事に100周年を迎えられたことに感謝し、さらに富士高が発展することを願う。

輝く未来への礎

PTA会長 中澤智彦

全国高等学校PTA連合大会が、8月25・26日に下記趣旨の元で3年振りにリアルタイムで実施されました。

世界を震撼させてきたパンデミックは、私たちが作り上げてきた社会があまりにも脆弱で、日常当たり前に行えていたことができなくなり、今までの環境が実はどれだけ有難いことだったかを気付かせました。さらに、インターネットを活用した働き方や授業等、ニューノーマル（新しい日常）への移行を急加速させました。今後も頻繁に起こり得る気候変動や大震災、新型ウィルスの流行など、それまでの常識を覆す新たな事態に対応していくためには、人

と人々が直接会えなくても、ネットワーク媒体を介してしか会話ができなくても、その繋がりの中から持続可能な共生社会を築くことのできる意識変革、社会構造の変革に取り組みつづける必要があります、そのような視点でも教育を考えていかなければなりません。

わが国の若者が抱える課題として以前から「自己肯定感が低い」、「消極的で内向き志向」といった点が指摘されてきました。これについてはすでに学校でも改革が進められているところですが、子どもの自立に最も責任を負うべき親自身がまずは真剣に向き合うべき課題です。“子は親の鏡”と言われます。

まずは親自身が子どもにこうあって欲しいと願う姿を親の背中で見せ、道標となることが求められているのです。

新時代の教育とは、まず私たち親が希望の持てる未来社会へのビジョンを持ち、自らが未来への礎となって主体的に行動し始めることであり、それが教育改革を進める学校を後押しし、地域社会、わが国そして世界の発展につながるものと信じます。

上記大会趣旨の元、4分科会による講演が行われました。印象的だったのは第1分科会の中室牧子氏（慶應義塾大学総合政策学部教授）、高濱正伸氏（花まる学習会代表）による講演でした。家庭教育はすべての教育の原点として基本的な生活習慣や生活能力、自制心や自立心、豊かな情操、基本的倫理観や正義感、社会的マナーなどを育成する上で重要な役割を果たすものです。

しかし、少子化や核家族化、地域におけるつながりの希薄化等、家庭をめぐる状況の変化の中で、人

への思いやり、道徳心の涵養、感性の錬磨、主体性の育成、自己肯定感の高揚など、本来は主に家庭がその役割を担っていたものが、今日では学校に委ねられるようになり、その依存度はますます大きくなっています。一方で各家庭における教育はそれぞれの価値観やライフスタイルに基づいて多様性が増しており、また親の過保護や過干渉、多感な思春期の子育てへの自信の喪失、無責任な放任、そして急変する社会環境への不安等、様々な問題が生じていると指摘されています。

私達親は、更なる向上を期待して、兄弟・姉妹・他人と比較してしまいます。この事が決して良い事では無い事が、改めて解りました。比べる対象は、他人では無く、過去の自分である事。過去からどれだけ成長出来たかが、重要だと認識させられました。

高校生の親としてどのように我が子の成長と向き合い寄り添っていけばよいのかを今一度見つめ直す機会をいただきました。

PTA進路講演会

吉原支部 岡田裕一

昨年はオンラインでの開催となりましたが、本年は新型コロナウイルスの感染流行がようやく落ち着いてきた9月30日(金)に、ロゼシアター中ホールで、感染対策に留意し開催することができました。

第1部は、本校OBである筑波大学の三谷純教授の講演でした。システム情報系教授の三谷氏は、「折り紙」の研究者で、「ホンマでっかTV」やNHKなどのテレビへの出演の他、講演会や各種シンポジウム等で幅広く御活躍されています。折り紙＝こどもの遊びで



は？と思うかもしれませんが、幼少のころからコンピューターに慣れ親しみ、東大大学院を卒業された三谷氏は、緻密・複雑で立体的な作品の展開図を数学的・工学的な考察により作成し、機械で折り目までつけるので、ラグビーワールドカップのトロフィーや、巨大なオブジェ、さらには家具や建築、ファッション分野への展開など、芸術的な驚くべき作品を創造し続けています。極めて奥が深い研究分野であり、国際会議も開催されているそうです。今回は時

間の都合で折り紙は作りませんでしたが、折り目どおりに折ると、意外と短時間で、誰でも見事な作品を作ることができるそうです。

また、大学教授としての立場、富士高OBとしての立場から、富士高時代の思い出や筑波大学と東京大学の特徴、進路の選択などのお話のほか、二人の高校生の娘の数学の質問の仕方の違いなど私たちPTAと同じ親の立場からの話もあり、親近感の湧く講演でした。

筑波大学教授 三谷 純 氏 「母校富士高へのエール」

- ・勉強は世界を広げ人生を豊かにする
- ・勉強のスタイルは人それぞれ
- ・好きなものが2つあると強い
- ・大学受験は1つの通過点に過ぎない
- ・何が正しい選択か誰も分からない
- ・巡り合わせの運命を大切に
- ・保護者はお子様の健康とメンタルのサポートを

「幸せはいつも自分の心が決める」

by 相田みつを



第2部では進路課長の奥村雅尚先生から「これからの時代に求められる力とは？」と題する講演を頂きました。変化している入試に対して不安を抱いている保護者は多いと思いますが、入試の制度や、親に言われたくないこと、親の心構えなど、具体的に充実した内容の講演で、今後の参考になりました。今回参加できなかった保護者の方は、ぜひ来年参加してみてください。

最後に、校長先生をはじめ協力して下さった先生方並びにPTAの皆様、ありがとうございました。

PTA研修会『富士高生の人生の問題解決を手伝う薬膳の知恵』

富士支部 中矢和子

秋の涼しさから日々寒さが厳しくなってきた今日この頃、皆さんは健康に過ごされていますでしょうか？季節の変わり目は体がなかなか慣れず何かと体調を崩すことが多いのではないのでしょうか？特に勉強・部活動と日々忙しい生活を送っている富士高生とその様子を身近で見守る保護者としては、すべての根幹に健康があるといっても過言ではないと思います。またここ数年はコロナなどによる行動の制限によるストレスもあり、体の健康に加え、心の健康にも取り組む必要が強くなってきたように思います。

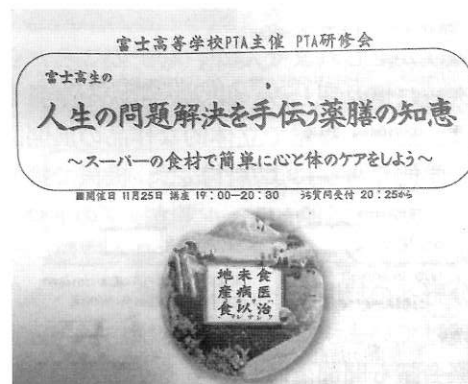
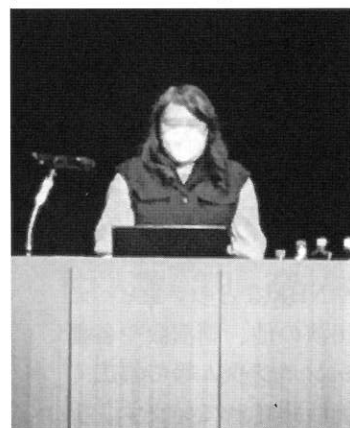
こういった心身の健康について参考となる講演会が11月25日、富士ロゼシアター小ホールにて、『富士高生の人生の問題解決を手伝う薬膳の知恵』と題して開催されました。講師の〈ふじの国薬膳〉主宰の石部晃子先生は「五感で感じる薬膳」をモットーに、自分自身で健康を管理し、病気やその疑いがある状態を食事で治す、セルフメディケーションの普及を行っておられる先生です。

今回の講演では、東洋医学の五行論の中から特に「七情弁証」にフォーカスをしたお話がありました。五行論とは自然界の全ての事物（人間や感情も含む）を木・火・土・金・水で分類し、説明しようという考え方です。また七情とは人の感情で喜・怒・憂・思・悲・恐・驚を指し、「七情弁証」はそれらの感情からくる病を食事で改善していこうという考え方です。これらのお話を、分かりやすい事例やユーモアを交えて、私達にも理解しやすいようにお話いただきました。

例えば、くよくよしたり、考えすぎている人を放置しているとうつ病などの病気になる可能性があります。

ますが、果物のようにミネラル（カリウム）を含んだ甘さを与えることで、緊張をゆるめ調和させ病気を防ぐ事ができるそうです。また薬膳に普段なじみのない人にもスーパーやコンビニにある食材でも十分であることもわかりました。

富士高生も高校生で多感な年ごろです。学校生活で感じる喜びや不安など色々な感情や悩みがあると思います。このようなことに家族が出来るサポートの一つとして、毎日の食事で「七情弁証」を活用してみるのも良いかもしれません。



学年だより 3年部

富士高校100周年、次の一步

第3学年部 学年主任 野村 保

100周年の式典が無事、終わりました。その式典に臨む3年生たちの姿を見て、「成長したなあ」としみじみ思いました。楽しそうに会場入りした生徒たち。式が始まると、顔も引き締まり、真剣にステージに目をやり、司会の後輩たちの頑張りを称え、拍手を送る。その姿に、100年の伝統を背負い、日々活動してきた最上級生にふさわしい姿を見た気がしました。学年主任として、この生徒たちを預かってから、2年が過ぎ、この式典を迎え、しみじみとした感動を味わうことができました。

現在、11月も終わろうとしています。受験生としても立派に過ごしている彼らをみて、誇り高き富士高校の一員として、100年の伝統に恥じない人材として、社会に羽ばたけるだろうと確信したひと時でもありました。

伝統とは、自分たちだけでは作れるものではなく、先人たちの苦勞と努力とを受け継ぎ、自分に与えられた目の前の課題や目標を、自分の力を信じて乗り越えていく、その何世代もの積み重ねです。それは、決してただ年数だけ重なればできるものではありません。受け継ぐべき者たちが、その積み重ねの大切さに気づき、受け継ごうと思ったときに、伝統が、伝統として残っていくものではないでしょうか。そして、その先人たちが過ごした一日一日の積み重ねの100年間は現在の富士高校であり、伝統の力ではないでしょうか。

創立当時の時代背景を振り返り、富士高校の原点を知ること大切です。簡単ですが調べてみました。創立当時の富士中学校は、多くの市民たちの願望のもと、大正12年4月に開校しました。明治の教育改革「教育令」につづく、「中学校令」の一環でした。この地域の発展のためには、教育の力が不可欠であるという信念のもと、設立にこぎつけた学校の一つが富士中学校でした。立地の誘致に際しては、紆余曲折があったと資料からもうかがえます。それほど、富士中学校は、誰もが欲した学校だったとも言えます。大正という時代は、日本社会・文化の大きな変換期です。

明治日本は、資本主義を確立し、近代国家へ発展しました。日清日露戦争に勝利し、世界の大国に肩を並べた時代でもありました。一方、政治的、経済的に行き詰まりつつ、時代が大正へ。人々の活力は、民主主義へ向けられます。1913年の「大正政変」をきっかけに、「大正デモクラシー」が起こり、それは政治にとどまらず、社会や文化などあらゆるジャンルに発展します。「女性解放運動」「部落差別解放運

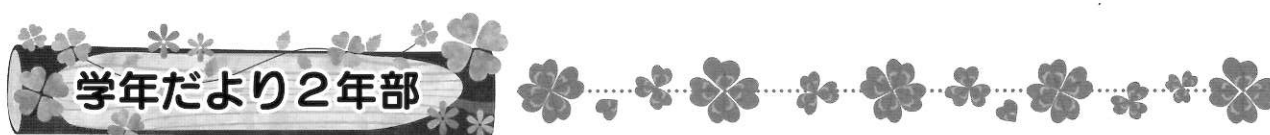
動」「普選運動」など、多くの人々がかかわり、社会の在り方を変えていきました。第一次世界大戦にともなう好景気を背景に、工業化が進み、都市が整備され、さらに教育の普及による就学率の上昇、海外からの新たな知識の流入により、都市部を中心に生活様式が大きく変化します。ライフスタイルの洋風化が進み、「大正ロマン」と呼ばれました。

そのような激動の変化の時代に、富士中学校が開校したのです。先人たちの、本校に託す思いはいかばかりだったでしょう。その当時を想像しただけでもワクワクしませんか。でも、その思いは、それを受け継ぐべき者たちが、気が付かなければ伝わっていきません。それが、この度の「100周年式典」の意味する役割のひとつではないでしょうか。私はそう思います。

開校の年、9月には関東大震災がありました。ちょうど始業式の日だったそうです。周囲は大被害で、家屋が倒壊し、多くの人々が野宿を強いられた映像も残っていますが、開校したばかりの学校は、生徒も校舎も無事で、レンガ作りの煙突が倒れただけだった、という記録が残っています。このように、決して開校から順風満帆であったわけではないことがわかります。それでも当時の人たちが地域のため、社会のため、国家のためと、向学心を持ち、周囲の多くの方に支えられながら、その期待に応え、一日一日を積み重ねて、歴史を刻み100年が経ったのです。その歴史の中の一ページに、今私たちは立っている。この人と人との繋がりや奇跡に感謝しかありません。

私たち現代人は、新しいモノばかりを尊び、最近では、古き伝統を批判することで、かっこいい気になっている者もあるが、その思考が大きな害を生じさせています。「変わらないことは、変わるより難しく、その努力が尊い」。私たち現代を生きる者が、先人に学ぶことの方が多いのです。批判することの方が簡単です。でも、何かをやり遂げた先人たちはもっとかっこいい人生を生き、この社会を、この国を築いてきました。そこに気づくことで、改めて彼らに敬意を示し、感謝の念を忘れず、私たちも「今」を頑張って、先人たちの努力の上に、更なる積み重ねをしていきたい。

この100周年を機会として、私の生徒たちは、もうそこに気づいている。この式典から、何か大きなものを肌で感じたのではないのでしょうか。自分には、そう見えました。「富士高校の100年」、次の一步は、若いこの生徒たち、そして保護者の皆様、私たちです。



学年だより2年部

10月11日から14日までの3泊4日、高原教室を実施し、2年生283名が参加した。今年もコロナ禍の中、昨年度同様水上高原ホテル200を宿泊地とし、谷川岳コース・尾瀬コースを歩いた。残念ながら4日目の日光東照宮は新型コロナ感染拡大防止のために中止となった。全国旅行支援の適用が、3日目に確定したが、4日目に群馬県で地域クーポンを使用することができないため、ホテルのご厚意で送料込み9000円のお土産を各家庭に送ることになった。1泊8000円の割引も適用された。7名の生徒の感想を掲載した。

第2学年部 学年主任 青木 照明

感謝

21HR 高橋 宏弥

去る10月11日から3泊4日、私たちは高原教室に行ってきた。俗に言う修学旅行は小6以来となる私たちにとって、待望の行事であった。最終日に日光東照宮に行けず、心残りな部分もあるが、最高の思い出ができた高原教室に行けたことに感謝したい。

自然のパワー!!を受けた高原教室

22HR 井出 陽向

人々は何故辛い思いをしてまで登山をするのかがずっと疑問でした。しかし実際に登り切ってみると疲れとともに今なら無敵かもしれないと感じました。山からパワーをもらったのかもしれないかもしれません(笑)。この先登山はしなくても、この経験は一生忘れることのない思い出です。

山頂にて

23HR 稲葉 暖乃

高原教室のメインである山登り。山を登る前はあまりの高さに絶句していたが山頂の絶景に私はたちまち心を奪われた。その瞬間今まで悩んでいた事が小さく感じられ考え方が変わり清々しい気分で下山した。この体験は私を変えてくれた。高原教室に行けて本当に良かった。

大切な時間とこの先も

24HR 工藤 薫

山登りで疲れた顔、山頂に着いた時の達成感に満ちた顔。学校生活から離れ普段見ることの

ない皆のたくさんの表情を見ることができた。高原教室は、受験生へぎゅっと近づく節目の行事でもあったと思う。皆と、そして皆と過ごした大切な時間と共にこれからも進んでいきたい。

貴重な自然と体験

25HR 白川 幸佑

惜しくも最終日の日光を見送ることとなってしまった。今年の高原教室ですが、非常に充実した3日間でした。谷川岳と尾瀬ヶ原は紅葉の季節を迎え、その美しい景色を見るとともに雄大な自然の中を歩くというとても貴重な体験をし、手付かずの自然の荘厳さに心を打たれました。

主体性が生んだ高原教室

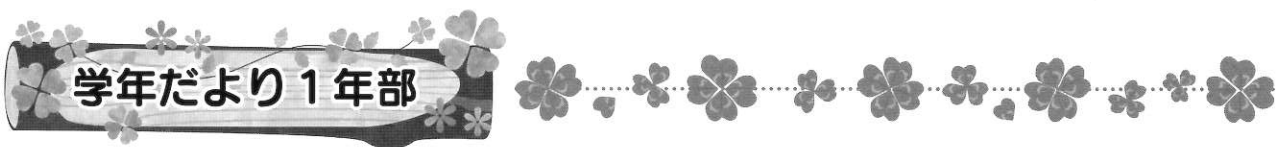
26HR 金子 英永

特に印象に残ったのは一ノ倉沢です。平坦な道が時おり見せる大自然に圧倒され、仲間と、時間や感情を共有する中で、仲間の隠れた一面を発見することで仲間の印象が変わりました。クラス全体の主体的な行動によって、高原教室が非常に良い経験となりました。

記録よりも記憶に残る高原教室

27HR 中原 寿哉

どうせ行くなら最高の思い出にしようと思いつつ行った高原教室。新型コロナウイルスの関係で中止になってしまったものも多少あったけれど、メインイベントであった登山では班員と協力しながら楽しんで登頂・下山することができた。色々あったが記憶に残る4日間だった。



学年だより 1 年部

「部活動、学校行事、生徒会活動への積極的参加をすること」が今年の1年生の目標の1つです。現在、多くの1年生が部活動や学校行事に一生懸命取り組んでいます。また、自分の進路に応じて希望者対象の行事にも多くの生徒が積極的に参加していました。富士高校は学校行事を大切にしています。学校行事を通して、人間関係の形成の仕方を学び、互いの能力を認め合い、自己評価を高めることに繋がってほしいと考えています。1学期末から2学期にかけて様々な行事がありましたが、それぞれの行事を通して生徒がどう感じたかを聞いてみたいと思います。

第1学年部 学年主任 石川 貴子

7月22日 OBOG企業訪問

13HR 高塚 健聖

僕は今回のOBOG訪問で仕事についてたくさんのことを学ぶことができました。緻密な作業や真剣に仕事をしている姿から、仕事にかける思い、情熱を身近で感じることができました。またOBの方は、「当たって砕けろ」の精神が大事だとおっしゃっていたので、自分に与えられた機会に対して、失敗を恐れず何事にも全力で取り組みたいと感じました。

8月5日 東大見学会／9、10月 OB講話

11HR 奥村 友美

まだ高校生になったばかりのように感じる中で、大学について考え始めなければならないことに私は正直とても戸惑った。大学について全く無知だったので、私は、東大見学会やOB講話に参加した。東大見学会では初めて実際の大学を目の当たりにして、そのスケールの大きさに圧倒された。また、OB講話では高校時代の勉強や大学生活などについて伺えて、役立つ情報を得ることができた。これらの貴重な経験を今後進路を考える際に生かしたい。

8月8～12日 エンパワーメントプログラム

17HR 松下 采未

夏休み中の1週間、エンパワーメントプログラムという留学生との交流を通じて「相手に伝えるための英語」を学ぶプログラムに参加しました。異文化との交流はもちろん、社会問題や自身のアイデンティティや夢などについて考え発表しました。それにより自分の英語力に自信がつき、学校の授業に前よりも積極的に臨んでいます。この1週間で得た貴重な経験をより今後の学習に生かしていこうと思います。

10月15日 保育実習

15HR 海野 帆希

実習前までは、準備も出来ているし大丈夫だろうと思っていた。しかし、園児を目の当たりにすると緊張して動けなくなってしまった。少し緊張もほぐれ自作のパズルで園児と遊んでいると、ある園児が

パズルのピースを足の指に挟んで遊び始めた。その姿を見て、驚きと共に自分も同じように自由な発想をもっていたのだろうかと思いついた。園児のお世話をするつもりだったが、知らぬ間に凝り固まった自分の固定観念に気づかされた保育実習だった。

10月27日 学年レクレーション

16HR マクロイ ジェシカ・奥津 美涼

10月末、高校入学後初の学年レクを実施しました。私達LHR委員は借り人競争、じゃんけんリレー、○×クイズの企画、運営を行いました。委員をはじめとする1年生皆の協力で学年レクを成功させることができました。クラスを超えて皆で協力し、全力で楽しんでいる姿がとても印象的でした。これからも残りの約2年間を共にする仲間と絆や支え合いの力をこのような機会を通じて深めていきたいと思っています。

11月9日 球技大会 男子ハンドボール

12HR 清 玄

僕は、今回の球技大会を通してとても良い思い出を作ることができました。僕のクラスは練習からあまり負けたことがなく、本番でも優勝することができました。みんな積極的にプレーできたし、パスを繋いでシュートまでいけて、クラス全員で勝ち取った1位になりました。このクラスで過ごすのもあと3か月くらいしかないので、もっとたくさんの思い出を作っていきたいです。

11月9日 球技大会 女子ハンドボール

14HR 仲皿 百々菜

私は球技大会を通して人との出会いに感謝したいと思いました。なぜなら、クラスの誰かが良いプレーをしたら、一人一人が自分のことのように喜んでいて、素敵な仲間たちと出会えたと感じたからです。また、練習から声をかけて励まし、それぞれのチームで作戦会議をするなどして、全員で「優勝」という同じ目標に向かって頑張ることができました。それにより、クラスの仲も深まりました。

3学期行事予定

1月			2月			3月		
1	日	元日	1	水		1	水	心×2 学検準備
2	月	振替休日	2	木	長距離大会	2	木	家庭学習日
3	火		3	金	長距離大会予備日 2年 共通模試	3	金	家庭学習日
4	水		4	土	2年 共通模試	4	土	
5	木	追試験	5	日		5	日	
6	金	始業式 L	6	月		6	月	家庭学習日
7	土	進研模試(1・2年)	7	火	1・2年 心	7	火	家庭学習日
8	日		8	水		8	水	特別時間割(答案返却)
9	月	成人の日	9	木	L	9	木	特別時間割(答案返却)
10	火	1・2年 1月試験	10	金	午後:宝永祭	10	金	球技大会
11	水	1・2年 1月試験	11	土	建国記念の日 土曜講座(1・2年)	11	土	
12	木	Lなし 課	12	日		12	日	
13	金	午前:①②(3年L) 会場設営	13	月		13	月	家庭学習日
14	土	大学入学共通テスト	14	火	1・2年 心	14	火	家庭学習日
15	日	大学入学共通テスト	15	水		15	水	午前:スタサポ
16	月	3年 自己採点	16	木	L	16	木	午前:スタサポ・心×2
17	火	1・2年 心 3年 直前補講開始	17	金	午前:③④⑤⑥	17	金	午前:心×2・L×2(OB講話) 成績不振者指導
18	水		18	土		18	土	
19	木	L(かるた大会)	19	日		19	日	
20	金	午前:①②③④	20	月		20	月	終業式
21	土	ハイレベル模試(1・2年)	21	火	1・2年 2月試験	21	火	春分の日
22	日		22	水	1・2年 2月試験	22	水	
23	月		23	木	天皇誕生日	23	木	
24	火	1・2年 心	24	金	1・2年 2月試験	24	金	
25	水		25	土		25	土	
26	木	L	26	日		26	日	
27	金		27	月	1・2年 2月試験 卒業式予行	27	月	
28	土	土曜講座(1・2年)	28	火	卒業式	28	火	
29	日					29	水	離任式
30	月					30	木	
31	火	1・2年 心				31	金	
備考			備考			備考		
						写真撮影		

心:心見考 L:LHR 課:課題研究
※状況によっては変更になる場合もあります。

○に数字:その数字の時間の授業を実施